

JA自己改革のシンカ

暮らし・地域編

No.6
2025.4.10

愛媛県 JAえひめ中央

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する3つの「シンカ」

地域の活性化

複合施設「みなとまち まってる」を開設 若年層や家族連れの利用増やす“JA事業の広告塔”



選果場跡地の活用へ複合施設を開設

JAえひめ中央は、2019年に複合施設「みなとまち まってる」を開設しました。選果場跡地の活用方法を検討する中、組合員からは農産物をPRできる食堂、JA内部からは本店で手狭になっていた金融店舗の移設が要望として上がっていました。また、異業種交流会で社会福祉法人との情報交換をきっかけに、待機児童対策や職員の福利厚生として保育園併設も決まり、複合施設にすることとしました。



複合施設「みなとまち まってる」

直売所の農産物を使った食堂やカフェを併設

「みなとまち まってる」には、貯金・共済・ローンの窓口が入る他、隣接する農産物直売所「太陽市」の食材を使ったメニューを提供する「えひめ中央おひさま食堂」「えひめ中央ひなたCAFE」、組合員や地域住民等が利用できる多目的ホール、地元の食材を使った料理教室を開催するキッチンスタジオ、「JAえひめ中央おひさま保育園」を備え、若い世代を含め、地域住民との関係づくりにつなげています。

食堂ではサラダバー、カフェではケーキやパフェなど、地元の旬の野菜や果実を味わえます。また、JAでは、各施設で使えるクーポン券付きの金融商品の販売や、食農イベントにローン利用者を招待するなど、JA事業の利用をしやすいよう各部門が連携しています。その他、地元企業等と連携して、「ハンドメイドマルシェ」や婚活イベント、セミナー等のイベントを随時開催しています。



人気の「えひめ中央おひさま食堂」。リピーターも多い

イベントを計画し、地域との関係づくりを進める

施設の利用者数は順調に増えています。例えば、カフェの利用者数（レジ通過者数）は、23年度に約3万7000人と、22年度と比べ約2500人増加。24年度には、約4万人が目標です。JAは「若い人や家族連れの利用者が増えており、JA事業の利用促進につながっています」と手応えを話します。25年度もイベントを計画しており、「JA事業の広告塔」として、地域との関係強化を進めていきます。

利用者の声

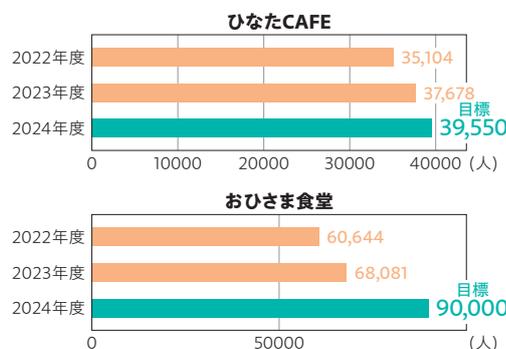


直売所やカフェに寄った後、気軽にJAの窓口にも寄れてありがたいです。



食堂が地元の食材を使っていておいしい。直売所で買った農産物を自分で調理する際の参考にしています。

「みなとまち まってる」 食堂、カフェの利用者数の推移



問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。